

7/17 森

# 原発建て替え「必要」

## 稲田衆院議員が来社

自民党の稲田朋美衆院議員（福井1区）が16日、福井新聞社を訪れ、加藤祐一編集局長らと懇談した。夏ごろに改定されるエネルギー基本計画に、最新型の原子炉へのリプレース（建て替え）を明記すべきと主張。国の原子力政策は明確ではないとして「人材育成や技

術の面で崖っぷち。岐路に立っている」と厳しい見方を示した。

脱炭素社会の実現に向けリプレースを推進する自民党議連の会長でもあり、国際社会に約束した「2050年カーボンニュートラル」を達成するためにもリプレースは必要と訴えた。

政府が撤回に追い込まれた新型コロナウイルス対策の酒類規制に関しては、飲食店の「営業の自由」の制約に対して「憲法論を度外視して議論されていることは問題」と指摘。重大な人

権の制約になるのであれば、憲法に緊急事態条項を入れるかどうかの議論の中で、憲法審査会や国会で協議すべきとした。

新型コロナウイルス対策で政府の迷走が続いていることには



原子力政策やコロナ対策などについて語る稲田朋美衆院議員＝16日、福井新聞社

「（支持者から）党や政権に対する厳しい声を聞く」と述べ、衆院選への危機感を強調。コロナ禍で浮き彫りとなった国が抱える課題を解決していく道筋を明確に示すことが大切とした。

通常国会への提出が見送られたLGBTなど性的少数者への理解増進を図る法案については「条文を直す必要があるれば直し、成立させることが当事者にとってもいいことだと思う」と意欲を語った。（伊豆倉知）